

ごあいさつ

代表世話役 西本 孝

新年のおよろこびを申し上げます。今年も、皆さまにとって佳き一年でありますように。

さて、NOI 岡山の会報第6号ができあがりしました。当会は、2016年に19年ぶりに再開後、2年目の2017年の活動も順調に進んでおります。6月17日(土)には操山公園里山センターで年次総会、8月26、27日の両日には中国地方5県の交流会、9月10日には美咲町で第5回自然観察会、12月3日には湯原湖で第6回自然観察会を開催しました。また、11月11日、12日両日には日本自然保護協会との共催で自然観察指導員の講習会を開催し、新しい会員が加わりました。

今後は、1月の新年会、4月には新庄村の森林セラピー協議会との共催で第7回自然観察会の開催を予定しています。定例の年次総会は6月16日(土)に半田山植物園で、中国地方5県の交流会は私たちが主催して、10月27日、28日の両日、真庭市蒜山や新庄村で開催します。会員の皆様と一緒に、自然観察を通じて自然の不思議さを実感しながら、充実した楽しい時間を持ちたいと思っております。皆さまの参加をお待ちしております。

今後の活動日程

西本

1. 新年会

2018年1月27日(土) (担当: 山根)
会場: 和さび岡山店
会費: 5000円 (学割あり)
参加希望者は、山根さんに1週間前までに。
携帯電話 090-8711-5169
アドレス ya72ma72neko@icloud.com

2. 第7回自然観察会

2018年4月30日に新庄村で開催

3. 年次総会と第8回自然観察会

2018年6月16日(土) 半田山植物園

4. 中国地方5県の交流会

2018年10月27日(土)、28日(日)
真庭市蒜山、新庄村で開催予定

第7回自然観察会 参加希望者は西本まで (締切 4月23日)

西本

●開催日: 2018年4月30日(月・祝)

●テーマ: 早春の毛無山の動植物

●集合 午前10時

毛無山ビジターセンター駐車場。

●行程 毛無山登山道を5合目くらいまで往復

●持ち物 飲み物、双眼鏡、筆記用具、雨具

●申し込み 西本 (taknishi@js4.so-net.ne.jp)

●見所 早春の森林内は明るくて日差しも暖かく、早春を彩る花々であふれています。麓の林内では、キクザキイチゲ、ミヤマカタバミ、エ

ンレイソウ、ミヤマキケマン、ヒダボタンなどの多くの花を見ることができます。併せて、留鳥のウグイスや夏鳥のオオルリなどの野鳥も観察できるかも知れません。

●昼食 さくら茶屋(1500円程度の実費)

●解散 14時

●その他 新庄村森林セラピー協議会との共催で、公募した参加者を案内する自然観察会を実施し、収益活動を行います。皆さんの参加費は無料ですが、案内に協力していただきます。

年次総会と第8回自然観察会の予定 参加希望者は橋本さんまで

西本

●開催日: 2018年6月16日(土)

●定例の年次総会で、今後の活動予定を相談して、計画を決めます。

アドレス michikusa@mist.ocn.ne.jp (橋本)

●集合 午前10時 半田山植物園
駐車料金がかかります。

●日程 午前: 総会と半田山植物園の概要
午後: 園内散策(14時解散)

●持ち物 昼食、飲み物、筆記用具、雨具

●見所 植物園の季節に応じた花や温室内での植物を中心に観察します。

中国5県交流会のご案内 皆さん予定しておいてください。

西本

●開催日: 2018年10月27日、28日

●集合: 真庭市蒜山(場所と時間の詳細は後日)

●宿泊: 津黒高原荘(0867-67-2221)

<http://www.tsuguro.jp/>

1日目は真庭市の蒜山高原で自然観察と講演会

2日目は新庄村毛無山で自然観察会

朝は-3℃と冷え込んだものの凍結はなく、後には青空が広がる上天気となった。県南の皆さんは5時半には出られたとのこと、はるばる真庭までお越しいただきありがとうございました。



写真1. ひまわり館の駐車場近くから、野鳥の観察が始まったとたん、対岸にヤマセミがいるとの声。

少しずつ霧が晴れて日が射すと、湖面に群れるカモたちの色彩がはっきりと見える(写真3)。対岸の山すその暗い水辺にオシドリが群れている(写真4～6)。約25羽が一斉に飛び立ち上空を旋回して、暗い岸辺に戻った(写真7と8)。マガモ、ヒドリガモ、カルガモ、ヨシガモ、キンクロハジロ、ホシハジロなどなど、ここでもオオバンが多い。これまではオオバンはたまに数羽を見る冬鳥なのだが、ここ数年はあちこちの河川や池に群れてやって来ている。トルコからインド、オーストラリアで繁殖しており、日本へは越冬にやって来る鳥だ。同じく越冬地の中国で環境異変があったらしく、それが日本に来ているのだと聞いたことがある。野鳥たちは世界中の環境の変化を知らせてくれるのだ。それにしても今年はカモが少ない。湖面に浮かぶカモたちは例年の半数以下の総数150羽程だ。



写真3. 下湯原湖に集まったカモ。



写真4. 湖面に鳥と枯れ木が映り込む。



写真5. オシドリの集団。



写真6. オシドリは陸に上がっていることが多い。



写真7. オオバンの群れが飛び立つ。

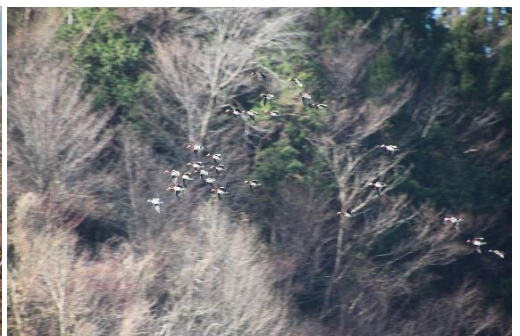


写真8. カモの群れも時折集団で飛び立つ。

昨年の湯原湖探鳥では勝山からの道中でヤマセミを見ており、今年も期待して川沿いの電線を気にしながら湯原へ向かったが空振り。8時30分ひまわり館に到着。ゆらゆらと霧が立ち昇る湖面にカモが点在しているが、逆光と薄霧に遮られ判然としない。対岸の暗い繁みの枯れ枝にヤマセミがいるとの声(写真1)。胸に茶色の斑点があるヤマセミのみだ(写真2)。

案内にヤマセミに出合えるかもとうたっていただけに、暗いながらもその出現に大いに安堵した。

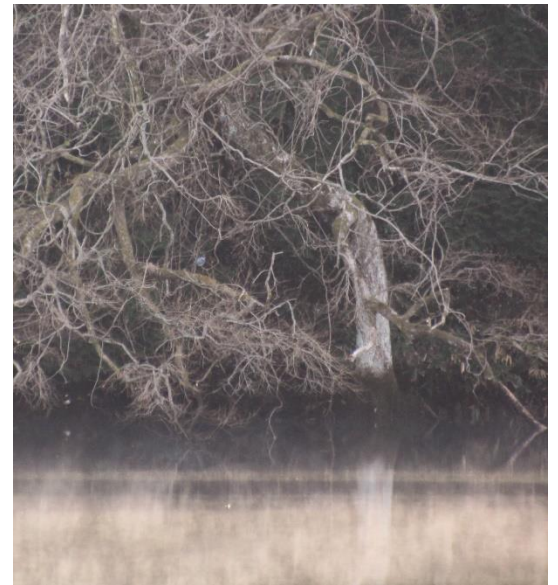


写真2. 開始早々、葉が落ちた木の枝にヤマセミの姿が見つかった。ヤマセミはどこでしょう？

キャラッ、キャラッと声がして白い鳥が対岸の繁みに入るのを見た人がおり、望遠鏡でヤマセミだと確認された。また戻って来たのだ。朝一番と終了間際の都合2回も出てくれて、大いに面目を施した。

ひまわり館で早めの軽食と休憩をとり、奥湯原湖周辺に広がる霞ヶ丘森林公園へ移動する(写真9)。

陽射しのない谷あいにはひんやりと寒い。ウグイスがジャッジャッと笛鳴きを聞かせ、コナラの裸木にヤマガラ2羽が枝先に出る。枝や幹に産み付けられた虫の卵や幼虫を探しているのだ。野鳥たちのこの習性無くして山の緑は護れない。春から夏にかけての子育て期には莫大な量の虫を捕えてヒナを育てており、虫が少ない冬季は草や木の実の他に、虫の卵や幼虫を食べて害虫駆除に大いに貢献している。

公園の入り口左手の藪で尾羽を振る小鳥がいた。双眼鏡でベニマシコと判明。冬の藪で見られる赤い鳥だ。道の斜面にはフユイチゴが赤い実をつけており(写真10)、子どもたちがママへのお土産に何本も摘んできれいな花束にしていた。コナラやクヌギの落ち葉を踏み進むと、ミズナラの幼木が赤い葉をつけていた(写真11)。

葉を落とす前にわざわざ赤くなるのはなぜか?コナラ林にミズナラの種を運んだのは誰か?もともとアベマキの林にクヌギが入ったのはなぜか?などなど植物の専門家と一緒に歩くとアカデミックな話題に事欠かない。展望台近くのトイレ傍の木にコゲラが出た。トイレ入り口の間隙にはカメノコテントウが、まるでボタンのようなまん丸の姿で張りついていた。

帰り道、コナラの木立でピュピュピュピュと繰り返す聞こえた声は、ゴジュウカラの声であった。この林にはゴジュウカラが多くフィー フィー フィーと力強く鳴くが、好天に誘われてぐぜりを聞かせてくれたようだ。帰宅してCDを何度も聞いて確かめた。

この日観察した鳥

勝山 ダイサギ、トビ

湯原湖 カイツブリ、カワウ 25、ダイサギ、アオサギ 1、オシドリ 25、ヨシガモ 4、ホシハジロ 20、マガモ 20、カルガモ(留鳥)、コガモ、ヒドリガモ、キンクロハジロ、オオバン 30、

ひまわり館駐車場 カワラヒワ、スズメ

霞ヶ丘森林公園 コゲラ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、ベニマシコ ツグミ大の鳥1(シロハラ?)

参加者 西本孝 山田勝 山根一郎 山内哲夫 道広 喜一 清水俊典 宮林英子
落合野鳥の会から5人



写真9. 森林公園に向かう参加者。



写真10. フユイチゴの果実が輝いていた。



写真11. 森林公園での観察の一コマ。



写真12. スコープの先に入った鳥は・・・。

植物や虫の専門家とご一緒に観察会は、贅沢で充実した1日となりました。ご遠方からご参加いただきました皆様に、厚くお礼申し上げます。また道広氏、山根氏には落合野鳥の会へもご入会いただき、ありがとうございました。

2017年11月11日(土)～12日(日)国立吉備少年自然の家において、NACS-J自然観察指導員講習会が行われました。この講習会はNACS-JとNOI岡山共催で行われ、私たち9名の会員がスタッフとして参加しました。

昨年3月の玉野に続き2年連続の講習会開催は大変異例だということでした。開催の3ヶ月前の9月12日に現地の下見を行い、その日から本格的な広報活動を始めた結果、当日参加された受講者は31名。世間では初日は1続きでポッキー・プリッツの日、翌日はおかやまマラソン開催といった中、自然に関心を持つ皆が吉備高原に集いました。横浜や奈良をはじめ県外から受講の方も多く、また年齢層も60代から10代の学生までと、改めてこの講習会への関心の大きさと受講生の皆さんの熱心さを感じました。

前日の雨に少し不安を感じたものの、当日の朝はさすが「晴れの国岡山」、すがすがしい秋晴れの日となりました。NACS-Jの福田さんの挨拶(写真1)からの開講式を済ますと、早速野外実習(写真2)が始まりました。島根、鳥取両県から来られた佐藤、清末両氏(写真3、4)を講師として2班に分かれ、森を眺め観察し、森に入り森に学ぶ講習が行われました(写真5)。



写真1. 福田さんのあいさつで始まった開校式。



写真2. 晴天の下、野外で始まった実習。



写真3. 佐藤講師に連れられて、葉っぱの下の世界に引き込まれていく。



写真5. 落ち葉の下では、葉は細かく砕かれていた。

昼食をはさみ、自然保護と観察に関する講義。この休憩時には午前中の実習に関連して、佐藤講師のツルグレン装置を使っての土壌生物の観察があり、顕微鏡をのぞき込んで色や形の様々な土壌生物に多様性を実感することができました(写真6、7)。



写真4. 清末講師の指示で林から集めてきた落ち葉を並べる。



写真6, 7. 顕微鏡をのぞき込むと、多様な微生物の世界が広がっていた。

そして夜の情報交換会（写真8、9）。幹事を引き受けてくださった会員の山根さん、永富さんの周到な準備と細々とした気配りに感謝しつつ、受講生持参の各地のお土産に舌鼓を打ちました。

写真8、9. とても盛会となった夜の情報交換会。



2日目のオプション観察会にはほとんどの受講生が参加され、双眼鏡の使い方の説明ののち野鳥の観察や敷地内にあるスタジイとコナラの比較などに朝のひとときを過ごしました（写真10）。

その後は初めての観察会実施に向けての取り組み。講師の先生からは様々な小道具やアイデアが繰り出され、スタッフとして参加している私自身が驚き、さらに自然の面白さを感じました。午後からはいよいよミニ観察会が始まりました（写真11）。受講生が指導員となって初めての観察会を行います。この内容がクイズやミステリー仕掛けあり、スケッチや宝探しゲームありで大変工夫されており、たった1日半の講習でよくそここまでと感心するばかりでした。

もちろん受講生の方々の日頃の活動や向学心の表れでもあるとは思いますが、昨日からの講習で講師の先生方が言われていたことがきちんと伝わり、自然のしくみ・体験・五感で感じるといったキーワードが反映されているのに感心させられました。その後ミニ観察会の講評、閉会行事と進み、最後は皆で記念写真（写真12）を撮り解散となりました。

今回はスタッフとしての参加でありながら、何度も驚きたくさんのヒントをいただき、実り多き2日間となりました。このような機会を与えていただきました関係各位に大変感謝いたしますとともに、1泊2日の研修に快く送り出してくれた家族にも感謝しています。この講習会で本会に11名の新会員を迎えることができました。講習会から帰宅するとすぐに新会員の歓迎会の案内メールが届くというネットワークの素晴らしさ。今後の活動がますます楽しみになりました。県外から参加してくださった皆さんも各地域で仲間の輪を広げられ、ご活躍されることを願っています。



写真10. 早朝観察会ではスタジイ（右上）やアラカシ（右下）の違いを学ぶ。



写真11. 受講生によるミニ観察会の一コマ。



写真12. 受講生やスタッフも大満足で、皆さんが充実した顔で写真に収まった。



後日談ですが、お土産にいただいた佐藤先生がつくられたススキのバッタ（写真上）を職場に持参したところ、大変好評でした。講習会後も自然の素晴らしさを伝えることができる実感を得ることができました。